

復興まちづくり訓練の記録

～ まち歩き訓練編 ～

2024年11月 高ヶ坂地区

事前都市復興

とは、まちが災害によって被害を受けてしまうことを想定し、災害が発生する前から被災後のまちづくりの方針や復興プロセスについて検討し、必要な準備を進めておくことです。このうち、地域主体で行う被災後のまちづくりに関する活動を「復興まちづくり」といいます。復興の過程で被災前よりまちを良くするために、住んでいるまちの課題や改善点、活用できる資源や残すべきまちの魅力などをあらかじめ地域の皆様に点検し、被災後のまちづくりを事前に考え・共有する『まち歩き訓練』を復興まちづくりの一環として、地域発意で高ヶ坂地区の方々と共に実施しました。

被災後、自治体では都市復興に取り組むこととなりますが、多くの自治体では都市復興の経験がなく、計画の検討や住民との合意形成等に時間を要し、復興事業の着手に遅れが生じてしまうおそれや、中長期的なまちのあり方について十分な議論がなされず、望ましい都市復興が実現できないことなどが懸念されます。このようなことから、事前都市復興の重要性が認識されています。

町田市では地域の皆様が平時から復興まちづくりについて考え、理解しておくための取組として **4つのSTEP** を掲げており、『まち歩き訓練』は **STEP2 地区の課題や資源を把握しよう** に関連する取組のひとつです。

復興まちづくり・4つのSTEP

STEP1 都市復興についての理解を深めよう

都市復興とは何なのか・何をすべきなのか情報を集め、地域や行政が開催するセミナーや勉強会等へ足を運ぶことから始めてみましょう。

◆2024年4月 事前都市復興セミナー 「今から考えるまちの復興」

東京都立大学の先生をお招きし、事前都市復興についてわかりやすく解説するセミナーを開催しました。過去の災害から学ぶべきこと、事前都市復興の意義、復興における地域参画の重要性等について、お話いただきました。



STEP2 地区の課題や資源を把握しよう

まちを復興していく際に課題になりそうなことや復興後も残していきたい地域資源など、お住まいの地区の“地区特性”を把握しましょう。

◆2024年11月 事前都市復興 まち歩き訓練

高ヶ坂地域において、実際に地域を歩いて災害が起きた後の復興に関する地区の課題や将来にわたり残すべき地域資源等を確認することを目的として「まち歩き訓練」を実施しました。

日時：2024年11月16日(土) 13:00～16:00

参加者：8町内会・自治会 計32名

(高ヶ坂第一町内会、高瀬住宅自治会、芝好園自治会、高北自治会、高ヶ坂住宅自治会、晴見台自治会、高美台町内会、高ヶ坂第2アパート自治会)

共同研究：東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 市古太郎教授・益邑明伸助教

協力：工学院大学 建築学部 まちづくり学科 村上正浩教授

訓練の内容は
内面をCheck!



STEP3 地区の復興像をみんなで描こう

把握した地区の課題・資源などをもとに、被害が発生した際の対応や復興像などについて、訓練等を通して地区の皆様と話し合い、共有しましょう。

STEP4 地区の復興まちづくり活動として展開

STEP1からSTEP3の取組を地区に適した形として整え、できることから継続的に地区の復興まちづくり活動として展開してみましょう。

『まち歩き訓練』の点検項目と大切な視点

『まち歩き訓練』を行う際には、都市復興を考える上で重要となる「課題」「資源」「魅力」を点検項目に、それぞれ下記の視点で地区の特性を捉えることが大切です。

課題

- 洪水・土砂災害ハザードマップ上で災害のおそれがある場所の様子や想定されているリスクを把握・確認する
- 空家や擁壁など、地震による被害が想定される箇所とその被害内容、復興の姿などをイメージする

資源

- 一時集合場所、井戸、防災倉庫など、被災後に使えるまちの資源を把握する
- 避難生活、復興の際に活用したい資源を把握する

魅力

- 美しい風景が広がる地点、自慢のみどり、散歩に適したルートなど被災後も将来にわたって残したい、日常から大切にしている「わがまちの魅力」を発見する

高ヶ坂地区における『まち歩き訓練』での気づき・発見

■実施方法

芝好園自治会、高ヶ坂第一町内会エリアを中心とした4つのルートを設定し、グループに分かれて『まち歩き訓練』を実施。

■当日の流れ

- 全体ガイダンス
- 『まち歩き訓練』
- 『まち歩き訓練』の成果のまとめ作業
- 気づき・発見の全体共有

4つの町内会・自治会の避難場所であり、普段から活用できるとよい。



防災倉庫の前のスペースは、災害廃棄物の置場として活用し復興を促進させる。



災害時協力井戸は、復興を考える際の資源になる。



斜面地が多く、地崩れが心配。水がにじみ出ているところは対策が必要。



開けた眺望は次世代に引き継ぎたい。



団地公園の桜が綺麗。お祭りも実施されており、復興の際のシンボルになるかも。



防災倉庫を確認！



傾斜が急な階段を発見！



防災倉庫を確認！



災害時協力井戸を確認！



防災倉庫を確認！



水が出ている石垣を発見！



剥がれた擁壁を発見！



土砂災害警戒区域を確認！



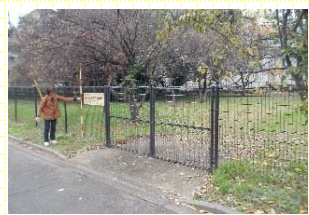
私道の場合は復興の際に土地の権利調整に時間がかかるため、事前調整が大切。

広場・空地などの広い空間は、避難場所や仮設住宅の設置場所として活用できそう。

水路沿いに市の下水道管理用地を発見！



被災時に活用できる空き地をあらかじめ確認しておくことで、速やかに復興を進められる。



地区内の道路は、地域住人の往来が主なので、災害時に変わったことがあればすぐに気づくことができる。



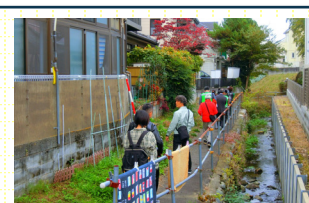
開けた眺望が望める。高ヶ坂石器時代遺跡は、地域の歴史を伝える資源・魅力のひとつ。



春になると恩田川沿いは桜が綺麗。この美しい河川沿いを残していきたい。



平時の水路は水が少ないが、大雨時にあふれないか注意が必要。



身近な避難広場、防災倉庫など災害時に使う場所を把握しておくことが大切。



地域コミュニティの強さを活かし、事前に被災後の対策を話し合うことが大切。



洪水災害

家屋倒壊等氾濫想定区域

浸水深(鶴見川水系)

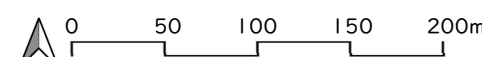
- 0.1m～0.5m未満
- 0.5m～1.0m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 2.0m～3.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 5.0m～10.0m未満

土砂災害

特別警戒区域(レッドゾーン)

警戒区域(イエローゾーン)

- 建築物
- 河川・水路等
- 都市計画公園



A班

- ・水が豊富で大雨の際には出水するが、その水を上手く災害時に活用できるとよい。
- ・電柱が多く、災害で倒れた際には避難ができずに孤立する可能性があり、救援活動にも支障が出るため、地中化などを考える必要がある。



B班

- ・線状降水帯により短時間で降雨量が多くなった場合、高ヶ坂第一町内会の方へ雨水が流れる懸念がある。
- ・個人で栽培している比較的小さな農地でも、災害時に活用できる可能性があるため、事前に使用可否を確認できるとよい。



C班

- ・大雨の際に水路があふれないか、老朽化した水路や未整備箇所の安全性などについて、日ごろから注意していきたい。
- ・催し物や学習の場などを通して地域の繋がりができており、密着型の地域づくりが進められている。



D班

- ・ハザードマップに載っていないような箇所でも、安全かどうかは確認したほうがよい。
- ・避難所や資材置き場など、人の土地を勝手に使うことはできないため、事前に使用可否を確認できるとよい。



■ ■ ■ 訓練の総評 ■ ■ ■

高ヶ坂の地形と風景は、生活にも深く結びついているのでは、と感じました。熊野神社の屋根造と神社林、また境内空間と参道の雰囲気、地域の例大祭の賑やかさが想像されます。恩田川へ流れ込む多くの湧水と水路は、まちの潤いにもなっているのではないのでしょうか。通勤通学や外出時に感じる「季節」感、お祭りや地域活動で感じる「わが町」感、これを地図や写真で表現し、地域で共有することで、高ヶ坂の地域づくりや斜面緑地のあり方にもつながる知見が得られるのでは、と感じました。
(東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 市古太郎教授)

災害復興においては、このまちをどうするかを、地域に暮らす皆さんで話し合うことが重要です。普段の地域の活動が盛んでない地区では、話し合いの機会を設けることに苦労しますが、この地区は既にその準備ができていることが大きな資源と感じました。
被災後には、みんなでまちの魅力を考える余裕はなかなかなく、被災地では出来上がった後に後悔する声も聞かれます。
暮らしているまちの魅力については、特に事前に話し合っておくことが大事です。
(東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 益邑明伸助教)

我々側から市に「復興まちづくり訓練をぜひ実施したい」と要請し、町田市で初めての訓練が実現しました。
普段何気なく歩く道ですが、大雨が降ったらどんなことになるのか、危険がどこにあるのか、過去の大雨時の状況など、みんなで考えることができました。参加者が自分事として主体的に取り組むことができ、良い訓練だと感じました。
(高ヶ坂・成瀬地区町内会連合会 藤林文男相談役)

町田市における事前都市復興の考え方 ～事前都市復興基本方針～

「町田市における事前都市復興の考え方」では、行政と市民それぞれが平時から備えておくべき事項を示しているほか、本書において市内の想定される建物被害を確認し、町田市における災害リスクの特徴や課題を紹介しています。また、復興まちづくりに関する情報をホームページや広報、動画配信等で発信しています。

お住まいの地区で復興まちづくりについて考えたい等のご要望があれば、下記までご連絡ください。



町田市における
事前都市復興の考え方
(市ホームページ)

発行日：2025年1月

発行：町田市都市づくり部都市政策課

☎042-724-4248